

3

ごみはどこへ

ごみは、どこへ運ばれていき、どうやってしょ理されているのでしょうか。

ごみのゆくえ



いろいろな種類のごみがしゅう集場所に出されているね。



学校のじゅ業でも、家でご飯やおやつを食べる時も、本当にいろいろなところでごみはでてしまうわ。

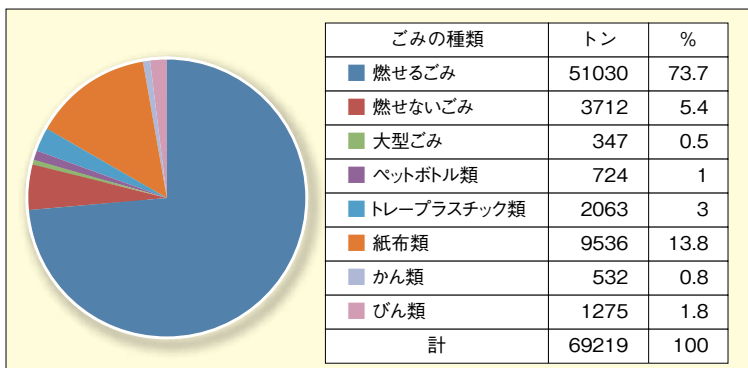
家や学校などからは、燃せるごみや燃せないごみ、かんやびん、ペットボトルなど、いろいろな種類のごみが出されます。小田原市では、ごみの分け方や出し方、出す日などのきまりを作って、これらのごみを集めています。

ごみは、係の人がしゅう集車で集め、^{かんきょう}環境事業センターに運びます。

どんな種類のごみが多いのかしら。



市全体のごみの中身の割合(平成30年度)



ごみをしょ理する人たち

ごみを集めるために
どんな工夫や努力を
しているのでしょう。



小田原市で1日に出るごみの量(平成30年度)

1日190トン

※ 2トンつめるしゅう集車で約95台分

※ 4年生(1人約30kg) 約6300人分

ごみを集める仕事は
たいへんそうだね。



市の係の人の話

ごみをきちんと集めるために、ごみを出してもらう時間や集める道じゅんを決めています。

集める時にこまることは、ごみの分け方や出し方のきまりを守らないで出されたり、ふくろをしぼっていないために、ごみがばらばらに散らかってしまっていたりすることです。

みんなが気持ちよく生活をするために、一人ひとりがきまりを守ってごみを出してほしいですね。また、台所からの生ごみは、水をよくきって出すなど、少しの工夫をしてもらうことで、ごみの量はもっとへっていきますね。



ごみの出し方の
きまりを守ることは、
とても大切なんだね。



ごみの出し方の
ルールや出して
いい曜日を
調べてみよう。



かんきょう
環境事業センターで
はごみをどのように
しょ理しているの
でしょう。

かんきょう
環境事業センターをたずねて



も 燃せるごみのしょ理



市内から集められたごみは、しゅ
う集車ごとに重さをはかります。



板や木の枝などの大きなごみは、
細かくくだいてからごみのちょ
ぞう庫へ。



ごみは、投げ入れ口から大きなごみの
ちょぞう庫へ。



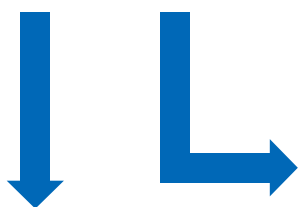
集められたごみは、クレーンで
よくまぜ、持ちあげて焼却炉へ。
(1回につかむごみの重さは約1トン)



ごみは、高熱(約950℃)で完全に燃やしますが、燃えかすが灰となって残ります。



中央制御室では、交たいで24時間、いつも焼却炉やえんとつを見守って運転しています。



残った灰は、道路をつくる材料としてリサイクルされるほかに、堀ヶ窪(久野)にある最終しよ分地に運ばれ、うめたてられます。

しかし、最終しよ分地の広さもかぎられているため、数年でいっぱいになってしまいます。

そこで、市ではお金をはらって、ほかの地いきの市町村に、残った灰を引き取ってもらっているのです。



ダイオキシンが出ないように、燃やした時に出るガスは、きれいにしてから外へ出します。

ダイオキシンとは？

ダイオキシンとは、おもにものを燃やす時に発生するもので、ほんのわずかな量でも、人やほかの生き物の健康や生命に、悪いえいきょうをあたえると言われています。

ぼくたちが出したごみの灰を、他のまちに引き取ってもらっていたなんて知らなかったよ。



あなたは、このことについてどう考えますか？

ごみをへらすために、
どんなとりくみが
されているのでしょうか。
また、わたしたちは、
どんなことができるのか、
考えてみましょう。

これからのごみしょ理

かんきょうせい さく か 環境政策課の係の人の話

小田原市ではみなさんがごみを出すときに、9種類のごみにこまかく分けて出してもらっています。あきかん・あきびん・紙・布・ペットボトル・トレー・プラスチック類など、「資源」として再利用できるものをほかのごみと別にして出してもらい、それを再び利用する「リサイクル」を進めています。



このようにすることで、今まで燃やしたりうめ立てたりしていたごみも資源として生かすことができ、燃やすごみの量自体がへるので燃やした後に出る灰もへらすことができます。さらに、かぎられた資源の節約にもつながりますので、市では市民のみなさんに資源を生かすことへの協力をよびかけています。

また、「リサイクル」のほかにも、ごみ自体を出さないように努力する「リデュース」、使いすてをやめてものを何度もつかうようにする「リユース」を心がけることも、ごみをへらすためにとても大切なことです。みんなで心がけていくことで、必ずごみをへらしていくことができます。

学校や家でできる
ことが、ほかにも
まだありそうだね。



教室にはごみの種類ごとに
ごみ箱があります。



給食の残りを生ごみしょ理機
で、ふよう土にしています。

小田原市では、平成9年度からごみの分別方法が変わりました。分別され集められたごみは「焼却(燃やす)」「資源化(リサイクル)」「うめたて」されます。

ごみ処理のうつり変わり	燃やしたごみの量(t)	埋め立てたごみの量(t)	資源化されたごみの量(t)
平成9年度	56741	1947	18773
平成13年度	65288	1276	20328
平成24年度	54332	644	19970
平成25年度	53994	563	19263
平成26年度	52965	600	18718
平成27年度	52190	553	18535
平成28年度	52015	601	18100
平成29年度	51412	617	17550
平成30年度	51884	304	17031

分別されて集められたペットボトルはどこへ

市内から集められたペットボトルは、
かんきょうしぎょう
環境事業センターの中にあるペットボ
トルをしょ理するしせつに送られます。

このしせつには、年間700トン(1ト
ンでペットボトル約3万5千本分)もの
ペットボトルが集められ、とくに、夏
の時期はふだんの倍の量になるそう
です。

キャップをはずしたペットボトルは、
機械で約700本分をまとめてつぶして
固められます。

一つあたり、約20kgのペットボトル
のかたまりがたくさん作られ、せん門
の業者に引き取られて加工され、ふた
たびペットボトルや別の新しいせい品
になります。

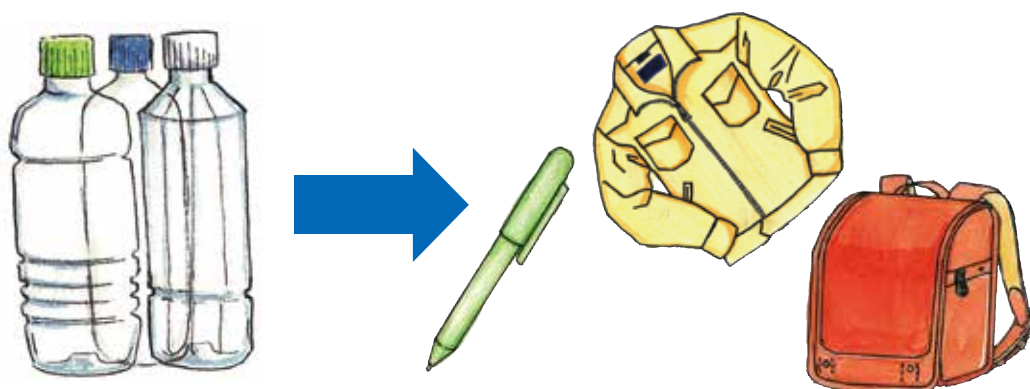


係の人の話

小田原市ではペットボトルをごみとして出すときに、中をよく洗い、キャップをとるルールになっています。しかし、10本のうち3本ほどはキャップがはずされずに出されています。そのようなキャップは係の人がすべて手作業ではずさなければならず、その数は一人で5000こ近くにもなります。

また、ペットボトルとして出されたごみ袋ぶくろの中に、かんや、びん、時にはほうちょうなどのきけんなものが入っていることも少なくありません。みなさんにはルールを守って正しくごみを出してほしいですね。





せい品によって原料となるペットボトルの量はちがいますが，学校で使うものでは，じょうぎやペン，ランドセルや体育で使うマット，ボールネットなどにもなります。また，糸にもなるので，シャツや手ぶくろ，バッグなどにもなります。

ペットボトルにかぎらず，かんやびんはもちろん，新聞紙やざっしなどの紙類，トレーやかん電池，テープなど分別して集められたごみの多くが資源として再利用されています。

約1年分の新聞紙(70kg)を資源ごみとして出し，再生紙の原料にすると，樹齢30年の木を1本半切らなくてすむそうよ。



1リットルの牛乳パック6枚で，トイレットペーパーが1個できるんだって。



ほかにもどんなものに再利用されているのか調べてみたいな。



- ・ものを買うとき
- ・ものを使うとき
- ・ものをすてるとき

ごみをへらすために、わたしたちができることは何か考えてみましょう。

- 小田原市でとりくんでいる5R
- ・リデュース（ごみを出さない）
 - ・リユース（再利用する）
 - ・リサイクル（再資源化する）
 - ・リフューズ（ことわる）
 - ・リペア（直して使う）

ごみはどうなるの？

